

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 06 月 30 日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ストラスブール大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
(○)1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

フランスのストラスブールという街に位置する総合大学。若き日のゲーテが学んだことで知られる。近年の著名な卒業生はブランショとレヴィナス。

留学した動機

かねてよりフランスは私にとって大きな意味を持っていた。十代の中頃に出会ったプルーストやランボー、ゴダールの映画などフランスの芸術は私に決定的な影響を及ぼし、デカルトやパスカルら17世紀からメルロ・ポンティーなど現代に至るまでの思想家の文章は、西洋の歴史にフランスの占める大きな位置を明らかにした。とりわけ厳密な合理的精神と繊細な感受性の融合、文化のコスモポリタンな性質がその魅力であったが、日々多くの文物に触れる中で、ごく自然に、西洋の思想芸術に携わる者として、まだ頭の柔らかい若いうちに一度フランスの地を踏み、その文化の有様を実際に自分の目で見たいと思うようになっていた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	学部4	年生の	夏	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年	8 月～		2016 年	6 月
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016 年	学部4	年生の	冬	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年	年生の		月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位				単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位				単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	年	月入学		年	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

丁度2015年度から、全額交換留学の枠内で、フランスにおいて人文科学を学ぶことが可能になったから。(それまでは、エコール・ポリテクニクとシアンスポを除いては、AIKOMの枠しかなかった)

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

必要書類の届く時期が信じられないほど遅いですが、短気を起こさず気長に待ってください。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特になし。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学側の要求する保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

法定翻訳付きの戸籍謄本(家賃補助の申請に必要)

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
哲学基礎方法論	4				
古代哲学史	4				
現代哲学	4				
ドイツ語	4				
比較文学	2				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>最も印象的だったのは、学術的な文章の厳格な形式である。日本では、一口に学術論文といっても決まった形式はなく、構成の明瞭なものからエッセイ風のものまで、書き手によって様々である。これに対し、フランスでは、少なくとも大学教育の場においては、口頭発表・筆記試験・レポートの文書を作成する際に、導入・本論・結論からなる厳格な形式を遵守することが求められ、僅かでも定型から外れれば、評価の対象とすらされない。これは緻密な思考と批判的態度を養う一方で、創造性及び書くことの愉楽を書き手から奪う危険を擁するが、今までこうした厳密な形式性に触れたことのない身にとっては大変新鮮な経験であった。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>1学期あたり、3、4科目の講義を履修した。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>現地で6月にフランス語能力資格試験(DELF/DALF)が実施されるので、帰国前に希望する級を受験すると、留学中の語学の勉強の総仕上げとなって、大変良いです。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学寮に宿泊した(一人部屋)。家賃は、本来の金額450€から補助額177€(フランスでは所得・居住形態に応じて全ての住民に家賃補助が供給される)を差し引いた、273€であった。寮は、ストラスブール大学から与えられる指示に従って、幾つかの選択肢の中からどこで宿泊するかを決定した。無論、大学寮に滞在する義務はない。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>気候は曇天が多い。主な交通手段は、トラム及び自転車。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>基本的に治安は良いが、日曜日は人通りが少なくなるので、狭い路地は避けてできる限り大通りを歩くようにしていた。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
休暇中は主に旅行(ヨーロッパ内)をして過ごした。
派遣先大学の環境について
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
大学付属の語学学校があり、希望者は無料でフランス語及び多言語の授業を受けることができる(筆者は授業のクオリティに満足できなかったため利用しなかった)
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
学生は、図書館・有料のスポーツ施設・食堂を利用することができる。PC環境についても、スピードは遅いが、一応、大学構内全体でWi-fi接続が可能となっている。
留学と就職活動について
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください
()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:) ()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:) ()6.起業(分野:) ()7.その他()
留学を振り返って
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学の成果として第一に挙げるべきは、フランス語の上達であろう。やはりその言語が日常的に用いられる環境に身を置くことにより、脳に大いに刺激が与えられるのだろう、特段の努力をせずとも語学に関しては目覚ましい進歩が見られた(ように思う)。話す・書くというアウトプットに関してはまだまだとどしい部分が残るが、読む・聞くというインプットについては自身でもそれとわかる位大きく変化した。渡仏当初には歯が立たなかった書物・ラジオがすらすらと読める・聞き取れるようになったことには、なかなか感慨深いものがある。

もう一つの成果は、上述の厳密な形式との接触による、思考の精密化(という大袈裟であるが)であろうか。自らの生まれ育った土地と異質の思考様式に触れること、そして、そもそも外国語で考え・書くという行為は、自己の思考の曖昧な部分を浮き彫りにし、より正確かつ簡潔な思考・表現を行うよう精神に働きかける。これまで日本語の甘い言葉の「流れ」に身を委ね、批判的思考の訓練を疎かにしてきた私であるが、この一年を経て、フランス語、そして日本語でも、以前よりは少しばかり緻密な思考の道筋を辿ることができるようになったと感ぜられる。

②留学後の予定

第一に、渡仏前、私は修士課程以降、哲学を専攻すべきか文学を専攻すべきか、さらには将来いかなる職業に就くべきか、逡巡していたのだが、今回の留学を経て、文学を学ぶ(研究者になる)ことに決めた。これは、一度、東京という土地、そしてそこにまわりつく人間関係のしがらみから離れ、フランスのストラスブールという落ち着いた街で、自己の内面を見つめる機会を持たせたことに大きく依る。よく言われる通り、フランスの人間は極めて個人主義的で、他人の人生に干渉することはほとんどと言って良いほどない(そもそも他人に余り関心がないとも言える)。したがって、この国での生活には、日本では得難いある種の「自由」が伴う。人目を極度に気にする東京の文化の中で窒息しかけていた私にとり、フランスの「自由」の空気との接触は、自らの重心を正しい位置に戻すために必要不可欠な契機であった。

第二に、博士課程において、英米圏に進学するかフランスに進学するか迷っていたのだが、今回の留学を経て、フランスに再び戻ってくる決意を固めた。それは何よりもまずフランス文学を専攻することを決意したからであるが、それに加え、この一年を通じ、この国と文化により深く分け入ってみたいと思ったからである。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2016 年 7月 11日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部4
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	ストラスブール大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
(○)1.研究職 ()2.専門職(医師・法曹・会計士等) ()3.公務員 ()4.非営利団体 ()5.民間企業(業界:) ()6.起業 ()7.その他()			

派遣先大学の概要

ストラスブール大学の社会科学学部在籍。ストラスブールはフランス・フランス語圏だが長らくドイツとの係争地でもあり、そのため仏独両時代において双方への一種の学問的ショーウィンドウの役割を果たしてきた伝統ある大学。

留学した動機

フランスの社会学・近現代史を研究するうえで、学部の中に一年間留学することで、語学の基礎をつくりフランスの学問動向を知っておくことが望ましいと考えたため。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2015 年	学部4	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2015 年	8 月～		2016 年	6 月
	学部4	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2016 年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年	年生の		月頃に	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位		80	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位		0 単位		
	留学後の取得(予定)単位		80 単位		
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2012 年	4 月入学		2017 年	3 月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5 年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					
学部進学時点(学部2年)では留学の予定はなかったが、その後専門課程での約1年間と、サマープログラムへの参加などによって留学の必要性を感じたため、学部3年次の後半で応募し、学部4年次の後半から留学。					

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

派遣先大学からの連絡が遅い場合があるが、まれにメールの送信ミスなどがあり得る(個人的に経験した)ので注意が必要

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

大使館やアンステチュフランセなどが提供している情報をもとに進めていけばよい。ビザの申請には時間がかかるので、時間に余裕を持っておくことが必要。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

フランスは特にとりわけ注意が必要な地域病等はないはずなので、予防接種等は行わなかった。健康診断はしておくとい。常備薬は現地でも買えるが、不安があれば用意していくといと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

全学交換留学で加入が必須の保険に加えて、フランス側で加入が必須なSécurité Socialeにも現地での入学手続きと同時に加入手続きを行った。全学交換留学が課す保険は歯科などに対応していないため、注意が必要。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教員との相談は行った。授業に関しては、個人的には卒論関係を除いて基本的にはほぼすべての単位を渡航前にあらかじめそろえておいた。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

渡航直前にDELF B2を取得した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

最低限の語学能力を持ってから行った方が有意義に時間を使えると思う。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
Histoire de la sociologie	3		Organisation et relations du travail	3	
Dynamiques conflictuelles de l'action sociale	3		Initiation à l'allemand	3	
Sociologie du travail	3		Anglais	3	
Initiation à l'allemand	3				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

<p>学部4年で渡航したため学部に登録し主に学部三年の授業を受講したが、フランスの学部は3年間で、概説的な授業も多く、レベル的に物足りなく感じた。また、交換留学生は教養学部のように自由に授業を選択できるが、正規学生は学年ごとにほぼ受講科目が決められており、また3年間同じメンバーで受講という状況で、授業の場で他の学生と交流するのは非常に難しかった。新しく人間関係が始まり、かつレベルもより高い修士1年のコースに登録することができれば…と思った。授業は講義形式の授業(CM)と、補助的に博士課程の学生等が担当する指導付き学習(TD)の時間からなるが、後者は留学生原則受講禁止だった。評価は基本的には試験、90~100分の大問1問の論述で、フランスの明確な形式があるため、それも習得する必要があった。</p>
<p>③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など</p>
<p>履修コマ数は週4コマ(一回2時間)前後だった。特に言語交換を複数人と取り入れて、授業の代わりのようにしていた(この場合一回4時間等になる場合も)。個人的には学部での授業と相性があまりよくなかった、また特に最初のころは体力的に外国語で多数のコマ数を受講することは厳しかったため、授業よりは自分の関心に関連する書籍を探して自学というスタイルをとった。</p>
<p>④学習・研究面でのアドバイス</p>
<p>学習・研究面での成果は、性格や適性、渡航時の語学時の水準などによると思うので、自分にあった方法を探るのが一番だと思う。</p>
<p>⑤語学面での苦労・アドバイス等</p>
<p>個人的には語学の授業と相性が悪いため、あまり語学の授業はとらず、ネイティブの友人らと交流や言語交換をメインにしていたが、各人のやり方があると思うので、自分にとって最も効率的と思う方法を探るのがよいと思う。</p>
<p>生活について</p>
<p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)</p>
<p>大学とその関連機関(CROUS)が提供する寮Paul Appellに入居。個人(シャワー・トイレ付、共同キッチン)で家賃は約260ユーロ(住宅補助を引くと約160ユーロ。キャンパスから近く、利便性は高かった。</p>
<p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>
<p>気候は東京と比べると寒冷。交通機関はトラムとバス(メトロはなし)、留学中は基本的に自転車で移動していた。食事は基本的に三食自炊。金銭の管理方法は、フランスの場合様々な場面で銀行口座を持っていることを求められるので、口座を開設し、少額の銀行カードか銀行カードで生活。送金はネットバンクを利用して引き出し、すぐにフランスの口座に移し替えという方法をとっていたが、より良い方法はあるかもしれない。</p>
<p>③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)</p>
<p>治安は基本的には良好(テロ関連を除けば)医療機関は最初にかかりつけ医の登録を行う必要あり。また歯科にかかる必要があったのでかかりつけ医とは別に通院。どちらも大学の保健センターが紹介してくれた。なお、病院に行くことも普段接しない単語や表現に触れるという意味で語学的には勉強になった。</p>
<p>④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)</p>
<p>・毎月の生活費とその内訳</p>
<p>家賃約160ユーロ(住宅補助込)、食費・消耗品など(200ユーロ)、その他交際費・旅費等</p>
<p>・留学に要した費用総額とその内訳</p>

約120万円(保険約10万円、生活費約80万円、旅費約30万円)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO海外留学支援奨学金(長期)、月額8万円、全学交換留学に付随して国際交流支援課がアレンジしてくださった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

欧州各地を旅行した。現地で簡単な社会調査・インタビュー調査を行った。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

正規の学期開始前に8月に語学研修と交流イベントのセットになったオリエンテーションプログラムがあり、語学面のサポートや留学生同士の交流する機会が提供された。学期中は語学面では留学生向けの語学のプログラム等は受講可能(ほとんど利用しなかった)。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

図書館は各学部ごとおよび総合図書館にあたるものが存在。開館時間等は総合図書館を除いて短く、立地的にも駒場のほうがはるかに便利。スポーツは別途料金(一年間で約20ユーロ程度)を払えば様々なスポーツを準授業形式で体験可能、食堂は複数あるが点在しており利用可能時間も短い。PCは各建物や学部に設置されており環境は良好(加えて、日仏大会館という組織が存在し、印刷やスキャンなどPC面の環境で大いに助けられた。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

現時点ですぐに就職活動を行うことは考えていないが、将来的に行うのであれば、語学を活かした仕事、国際的な仕事への関心は高まった。また、日本の労働環境の特殊性についての意識が高まった。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

()1.研究職 ()2.専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) ()3.公的機関(機関名:)
()4.非営利団体(団体名又は分野:) ()5.民間企業(企業名又は業界:)
()6.起業(分野:) ()7.その他()

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学面では、一年間でヨーロッパ言語共通参照枠での最高レベル(C2)を取得することができた。学問面では、留学の経験が自分の問題関心に影響し、深めるのに寄与した。また、日本の図書館で入手できないフランス語文献(特に最新の研究動向やデジタル化・公表されていない博論など)へのアクセスが容易で、研究にも進展があった。

②留学後の予定

大学院(修士)へ進学予定。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学にも様々な形がありうると思うので、留学生のステレオタイプや社会通念にあまりとらわれずに、自分なりの仕方自分なりの目的意識や目標設定を大事にして過ごすのが一番だと思います。さらに言えば、渡航前に用意していった「自分なりの」さえ覆され、自分自身が変わっていくことに気づくこともまた留学の醍醐味なのではないかと思います。留学を迷っている方はあまり深く考えずにチャレンジのもいいと思いますし、実際にこれから留学に行かれる方は、充実した時間を過ごされることを祈っています。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。